

事業名：県内高校生等と連携した低利用食材の利用拡大推進事業

担当課：フードイノベーション課

1 事業の目的

ジビエや藻場を食害する植食性魚類、廃棄野菜など、環境変化に伴って増加する低利用食材について、県内高校生と地域の飲食店、大学生と連携して「おいしく食べる環境対策」の普及啓発に取り組むことで、地域資源として有効活用を図るとともに、若者の県内就業促進を図ります。

2 事業の必要性

近年、海洋環境の変化によって魚の生息域が変化し、これまで食べる習慣のなかった（漁獲されていなかった）魚種の水揚げが増える傾向にあり、今後、益々、低利用魚の魚種および漁獲量が増加することが想定されます。

また、野生獣による農作物等への被害対策として、シカ等の捕獲及び利活用に取り組む地域は拡大していますが、ジビエとして活用される割合は、約10%程度に留まっています。

さらに、生産過程で形が悪い、傷があるなどの理由で販売に適さないと判断され廃棄される野菜・果物等の農作物についても、加工食品等に活用する「アップサイクル」などの削減・活用策が期待されています。

SDGsの観点から、これらの低利用資源を地域の重要な資源と位置づけ、県全体で、利活用促進に向けた取組を展開し、持続的な価値創造につなげていく必要があります。

3 事業の内容

みえジビエや藻場を食害する植食性魚類などの低利用食材の有効活用に向け、県内高校生と食関連事業者、飲食店、大学生が連携してメニュー開発及び販売プロモーションを行うとともに、高校生の成果と想いを発信するイベントを開催します。

4 事業の効果

高校生など若い世代のアイデアを地産メニューの開発に反映させ、地域の飲食店等と連携により、「おいしく食べる環境対策」の普及啓発に取り組むことにより、幅広い世代の意識啓発につなげていく効果が期待されます。

また、これらの取組には、高校生の伴走者として県内外の大学生の参画を促すことで、地域の高校生・大学生の三重県との関係性を構築し、将来的なU・Iターンにつながることを期待されます。

5 事業実施期間

令和8年4月 ～ 令和9年3月

6 事業費（財源内訳、積算等も具体的に記入）

(1) 県内高校生等と連携した低利用食材の利用拡大推進事業 (5,678千円)

県内高校生が食関連事業者、飲食店、大学生と連携し、地域の飲食店との連携による地産地消メニューの開発、及び複数の飲食店の連携により、「おいしく食べる環境対策」のプロモーションを展開することで、地域内で継続的に低利用食材が利用される仕組みを構築します。

また、高校生による取組成果や想いを広く県民に伝えるため、考案したメニューの試食提供や、参画した高校生による取組発表を行うイベントを県内で開催します。

これらの取組には、県内の大学生や、県外に進学した三重県出身の大学生が高校生の伴走者として関わり、運営の支援を担うことで、大学生と三重県の関係性を構築することで、将来的なU・Iターンにつなげます。